

活動を続けることで、障がい者演奏家としての自己表現を得られるようになった 宙(SORA)への奏でコンサート委員会

活動の目的

障がい者ピアニスト達の自己表現の場であるコンサートを開催することで、本人達に目標や、向上心が生まれ、同じ表現者としての仲間意識が出来、演奏活動が社会参加の一つの形として認識できるようにすること。またお客様にも、彼らの社会参加として理解をいただくこと。

また、障がい者の生き方の多様性のひとつとして理解をいただくために、枠にとらわれず広く一般の方へコンサートのご案内をすることにより、障がいの周知、理解を広めること。

大義は、将来的な共生社会への布石となること。

活動の内容及び経過

2020年度は、助成金以前のコンサートとして、3月に、交流のある台湾障がい者音楽家たちを招き、津山市にて日台障がい者音楽交流会を企画しておりましたが、思わぬコロナの蔓延により中止となりました。その後、毎年恒例化していた、地域交流の一環として備前市の窯元へ、東京から障がい者音楽家仲間を呼んで開く山麓窯コンサートに助成をいただけることとなり、地域活動が認められたことは大変嬉しく思っておりました。翌日もダウン症の娘が、前年も参加させていただいた岡山市の南ふれあいセンターにてのコンサートを企画していましたが、非常事態宣言により、こちらも開催が不可能となりました。

障がいのある参加者達は、概ね身体に何かしら弱さを持っており、時に感染症は命に関わり特に気をつけており、個人の小さな活動以外は全てストップしているのが現状です。

活動の成果・効果

2014年、津山市から始めた演奏会活動も、宙への奏でグループとして岡山市で2回、台湾で4回と徐々に回数を重ねてまいりました。またそれぞれのメンバーが東京、兵庫、熊本、岡山とそれぞれの地元で個人での活動を続けており、近隣の地域での病院、小学校、団体などでの演奏活動を続けています。

2020年度は、娘であります川嶋絢が、2009年度より、日本各地、また外国などでの演奏活動も含め、地域での演奏活動を軸に続けていることが、地域の文化発展への努力にあたりと評されたことは、大変嬉しく、障がい者たちの歩みが、一歩進めたように感じております。

今後の課題と問題点

現時点では、コロナ感染症の蔓延が一番の障壁となっています。



地元幼稚園での卒業お別れ会での演奏



新日本フィルビオラ奏者吉鶴洋一さんの演奏



母校の福祉学科の授業での演奏

ノブタクの東京でのクリスマス会の演奏

この問題が国内だけではなく国際間での交流にも、支障がなくなる日はまだ予想できません。

障がい者たちの音楽は、ネット配信だけでは伝わりにくく、会場にお集まりいただいて、技術だけではなく全身での表現を目で見て、音に触れていただく事で理解がいただけていると思っています。演奏会を開催できる時期がくるまで、個人での演奏は続けていても、各人の向上心、モチベーションの維持を保つこと、中でも家庭内で過ごすことが多く、一番は体力を保つことが今後の課題です。

- 代表者：川嶋哲也 ●所在地：津山市志戸部
- TEL：0868-22-1484 ●E-MAIL：tat_kfamily@yahoo.co.jp
- 設立年：2014年 ●メンバー数：15名